



鈴木まもる県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855

千葉市中央区市場町2番13号

電話 043 (227) 7411

鈴木 三番瀬は、東京湾岸の市川市をはじめ、浦安市、船橋市、習志野市の沖合に広がる貴重な自然環境。県は、一帯の埋め立て計画を白紙に戻し、「千葉三番瀬再生計画」に基づく干潟の再生と地域住民が親しめる親水空間づくりを進めており、市川市民の関心と期待は高まっている。ところで、この再生計画に関連して平成十三年から今日までに、多くの会議や調査が行われているが、これにどれくらいの予算を支出し、どのような

〈海の再生〉全国の注目浴びる

●県予算三億七千万円を支出

な成果を挙げられたのか。堂本知事 再生会議、計画策定のための調査、広報事業などで平成十三年より十八年までの六年間に三億七千万円を支出している。この間、住民の参加を求めている再生会議、徹底した情報公開を経て「再生計画」が策定された。また、これらの波及効果として全国各地で三番瀬の「海の再生」が注目され、その自治体の施策に盛り込まれたという点も成果の一つではないか。

「三番瀬」めぐり県の姿勢質す

ことしの四月の千葉県議会議員選挙で、みごとな当選を飾った鈴木衛県議。早くも六月定例県議会の一般質問に立ち、市川市民の貴重な財産である三番瀬の造成問題をはじめ、発達障害の児童・生徒を指導する「特別支援教育コーディネーター」制度、東京外環道に係る道路ネットワークづくり、「葛南広域公園」の造成計画などにつき、要望や提言を行い、その政策通ぶりを証明しました。



次世代に伝えよう ふるさとちばの貴重な自然

航路の浚せつ土砂活用を

●三番瀬の干潟造成

鈴木 県当局は、この三番瀬再生を今後どのように進めていく方針か？
堂本知事 自然環境の再生は、短時間では無理。科学的、経験的な知見を生かし、再生事業が周辺に及ぼす影響を観察しながら、息の長い取り組みが重要と考える。

鈴木 三番瀬の干潟造成には、他地域の土砂を利用するより地元の方々がよくなじんで安

もつと親しまれる構造に

●塩浜二丁目の護岸改修

鈴木 塩浜二丁目の護岸については、現在石積みを中心とした改修工事が行われているが、私が現地を視察した限りでは、勾配が急で滑りやすく、地域住民が海に親しむにはきわめて不適であり、危険な構造という印象を受けた。改善して欲しいと思うがどうか？

県土整備部長 塩浜二丁目では、高潮防護のための護岸改修を行っており、その高さを変更することはできないが、人々が気軽に海に親しめるよう護岸の各所に海に降りられる階段を設置する「など」は考えられる。

鈴木 塩浜一丁目の護岸は、台風や地震などによる倒壊のおそれがあり、万が一そうした事態になれば、後背地にある企業活動

定性もいって聞いている。市川航路の浚せつ土砂は利用できないのか。これは輸送費の面でも、経費の軽減が図れていいのではないか？

総合企画部長 「再生計画」のなかでは、干潟の形成が重要な事業と位置づけられている。市川航路の浚せつ土砂の利用については、漁業者の意見を聴きながら研究を進めていく。

に計り知れない被害を与えることになる。ところが、この護岸の維持管理に関しては昭和四十四年の市と県企業庁の「協定」に基づき市川市が行う」とされている。これは、県が海岸保全区域の指定をし、維持管理をも行うべきものと考えているが、

総合企画部長 塩浜一丁目の護岸は、市川市が所有・管理しているが、これまで台風や地震などによる被害に対しては、県としても市長からの要請を受け、緊急支援を行ってきた。今後も、安全かつ生態系に配慮した改修がなされるよう市と協議をしていきたい。「海岸保全区域」の指定は、土地利用形態に考慮しつつ、市や関係者と協議、調整していくことにしたい。

発達障害の子に、きめ細かな支援

●特別支援教育コーディネーター制度

鈴木 ことし四月の「教育基本法」改正により「特別支援教育の推進」が打ち出された。このなかで「特別支援教育コーディネーター」を設けることが求められているが、文科省が平成十八年度に調査したところでは、小学校九三・三％、中学校九〇・九％の指名——という数字である。児童、生徒一人ひとりのニーズに応じた教育を実現するため、コーディネーターの数の確保、研修の充実が必要があると思うが…。

教育長 千葉県では、すべての小中学校でその教員のなかから「特別支援教育コーディネーター」を指名している。各学校に新たに専任の教員を配置することとは、大幅な定数増が必要となり、現状では困難。しかし、法改正により特別支援教育の重要性が強調されたことでもあり、今後国の動向をふまえながら定数措置を考えていく。

また、特別支援教育コーディネーターには、発達障害の児童、生徒への理解を深め、適切な指導をすることが求められる。そのためには、専門性が必要であることから、県内すべてのコーディネーターを対象に、障害別

の講座や心理検査法の研修を行っているところだ。

鈴木 発達障害を持つ児童、生徒一人ひとりに応じた教育をするため、専門性のある「非常勤職員」の派遣が必要ではないか。教育長 専門性を持つ学校への指導、助言を行う「巡回指導職員」(九名)を学校の要請に応じて派遣しているほか、今年度は新たに特別支援教育支援員に対して、専門家として助言や援助を行う「巡回サポーター」を支援学校九校に配置した。

都市づくり、地域づくりのご意見、ご提言をお寄せ下さい

鈴木まもる 県事務所

〒272-0021 市川市八幡 3-29-20 秋葉ビル3F
TEL 047-333-6000 FAX 047-322-3232

都市づくり、地域づくりの政策通

鈴木まもる 県議



環状計画 外郭道路 東京状況

関連道路と一体的に整備すべき 江戸川に架かる四橋は特に重要

鈴木 東京外郭環状道路（以下外環道）は、昨年国が平成二十七年全面開通の計画を発表。用地買収も九〇％を超え、工事が目に見える形で進められている。私の地元市川市においては、よりよい都市整備に貢献するものとして行政、経済界をはじめ多くの市民が早期完成を望むようになった。

ただし、外環道の完成とは、その関連する道路の整備を含めての完成でなくてはならないと私は考える。そうでなければ、市街地へ流入する車両が増え、深刻な都市問題を引き起こしてしまふ。外環道の完成に合わせ、都市計画道路のネットワークづくり、また特に東京都と千葉県を結んで江戸川に架かる橋の改修、整備は不可欠である。

行徳駅近くに計画している（仮称）押切架橋、市川市大洲地先の（仮称）大洲架橋、妙典

都市住民に憩いの場づくり （仮称）葛南広域公園計画

鈴木 千葉県のなかでも、最も都市化が進んだ湾岸地域は、多くの人々が住んでいるにもかかわらず、その憩いの場となる公園の整備が著しく遅れている。幸い市川市柏井町と船橋市藤原町にまたがる地域には、広大な自然環境が存在する。

そこで両市は、この地を広域的レクリエーションゾーンの最適地と考え、昭和五十九年千葉県当局に、県立の広域公園の造成を陳情。これに対し県は、平成元年「さわやかハートちば五カ年計画」を策定。その中に市川、船橋、鎌ヶ谷の三市にまたがる約百ヘクタールに「（仮称）葛南広域公園」を造成する方針を打ち出している。

その後、新たに創設した「自然ふれあいモデル地区事業」により、第一期事業分として予定地の中心となる二十二・三ヘクタールを「葛南ふれあいモデル地区事業」として整備すべく取り組みできた」と認識している。

しかしながら、両市の早期建設を求める再三の要望に対し、計画は遅々として進んでいない。

こうしたなか、予定地周辺では高層マンションや娯楽施設、大規模な墓地造成など民間開発が次々に行われるようになった。「葛南広域公園計画」は、現在どこまで進捗よくしているのかお答えいただきたい。

まちづくり担当部長 「葛南広域公園」は、都市化の進む市川、船橋、鎌ヶ谷三市の住民の憩いの場として計画したもので、これまで地元自治体と協議を重ねながら事業化に向けて作業を進めてきた。しかし、厳しい財政状況下にあつて、県立公園の計画見直し、公園の管理・運営にあたる「指定管理者制度」の導入など。コスト縮減に努めているところでもあり、葛南広域公園の事業着手は難しい情勢になっている。



県議会の自席で再質問する
鈴木まもる県議

道の計画に合わせ整備することが重要であると認識している。このうち「妙典橋」については、用地取得を進めているところ。「行徳橋」は、現在国が進めている江戸川の河川整備計画が策定後に、協議をする予定。また「押切橋」は、東京都側の取付道路の事業が進んでいるので、都との調整をしたうえで、具体化に向けて動き出す方針。「大洲橋」は、両岸とも住宅が密集しており、まだ計画を進める段階には至っていない。

職員給与減額措置継続で論戦

改選後初の6月県議会で、最大会派の自民党代表質問に岡村泰明政調会長Ⅱ四街道市選出、4期Ⅱが登壇、財政、成田空港問題、高齢者問題、医療、環境、新産業振興、教育など幅広い今日的な問題について質問、県の姿勢をただしました。

財政問題では、同議会に追加提案された県職員給与の減額措置の継続議案について、「6年間も職員に負担を課すことについて、どのように考えているのか」と質問。知事は「財政健全化に向け、さらなる行財政改革に取り組んでいく必要がある。苦渋の決断」と理解を求めました。

また、平成18年度一般会計決算見込みでは、2月議会時の「収支均衡」から一転、28億円程度の赤字となる見込みとなりました。

によって緑を守ってきた。早期に事業着手は困難——というが、それでは、現存する予定地の（緑）に関し、県はどう考えているのか。

まちづくり担当部長 県としては、これら貴重な樹林地を含め、地域の緑が住民や企業の社会貢献活動によって、引き続き保全できるよう、地元自治体と共に努めていきたいと考えている。

鈴木 予定地やその周辺の環境の悪化が懸念されるなか、地権者から土地買い取りの申し入れがあつた場合、県当局が先行的に取得することはできないのか。また地元の自治体が取得しようとする際、財政支援ができないのか。

まちづくり担当部長 公園の都市計画決定が行われていない段階での用地買収は困難である。また地元自治体の取得に際しての財政支援も（先行取得）にあたるため、きわめて難しいと考える。

鈴木まもる県議 プロフィール

■略 歴■

- 昭和26年9月市川市若宮に生まれる
- 専修大学文学部中退
- 昭和63年市川市議会議員に当選
- 平成19年4月千葉県議会議員に当選

■現 職■

- 千葉県議会議員(商工労働企業常任委員)
- 水道事業運営審議会委員
- 自民党千葉県連政務調査会委員
- 自民党千葉県連市川支部副支部長
- 社会福祉法人若恵福祉会理事
- 市川市観光協会理事
- 市川市商店会連合会相談役
- 市川商工会議所顧問
- 市川交通安全協会会長
- 市川田尻工業会顧問
- 自衛官募集相談員
- 八幡社交連合会顧問
- 市川食品衛生協会顧問
- 社団法人千葉県公共嘱託登記・土地家屋調査士協会市川支部顧問
- 市川リトル・シニア野球協会顧問
- 市川市少年野球リーグ会長
- 市川盆栽たのしむ会会長
- 山野草たのしむ会顧問
- 詩吟神風流如水朗誦会後援会会長
- 市川そば商組合顧問
- 市川市サッカー協会会長
- 市川建設業協力会顧問